資　料　６

道路事業　事後評価

一般国道４号　富谷大和（とみやたいわ）拡幅

平成２８年　３月　２日
国土交通省　東北地方整備局

１．事業の目的と概要（１）

○事業の目的

・富谷町、大和町及び大衡村内における国道４号の交通混雑の解消

・東北縦貫道の代替路の機能強化

・地域開発計画の支援や地域間交流の促進

○計画概要

起終点　　：自　宮城県仙台市泉区七北田字大沢
　　至　宮城県黒川郡大衡村大衡

延長　　：延長１３．３km

幅員　　：Ｗ＝２５．０～３０．０m

道路規格、設計速度：第３種第１級、V=80km/h

都市計画決定：昭和４７年度

事業化　　：昭和４７年度

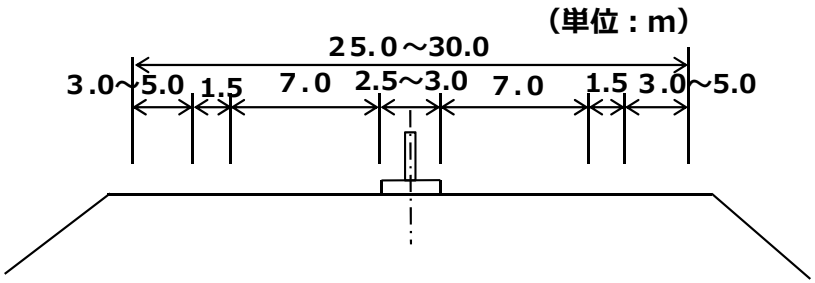
工事着手　　：昭和５１年度

開通年度　　：平成２２年度開通（平成２３年３月）

位置図



標準横断図





1．事業の目的と概要（２）

整備前

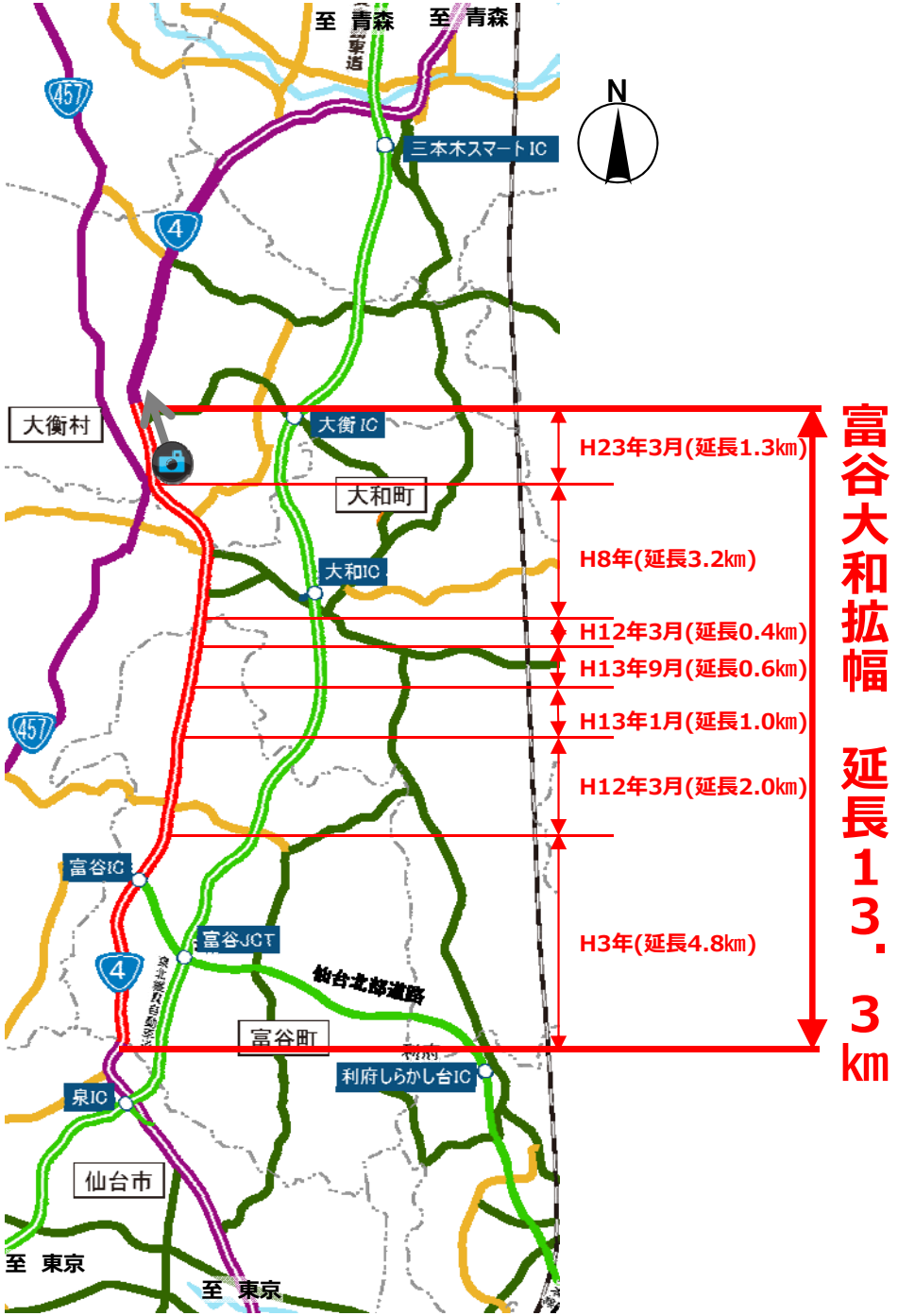




整備後



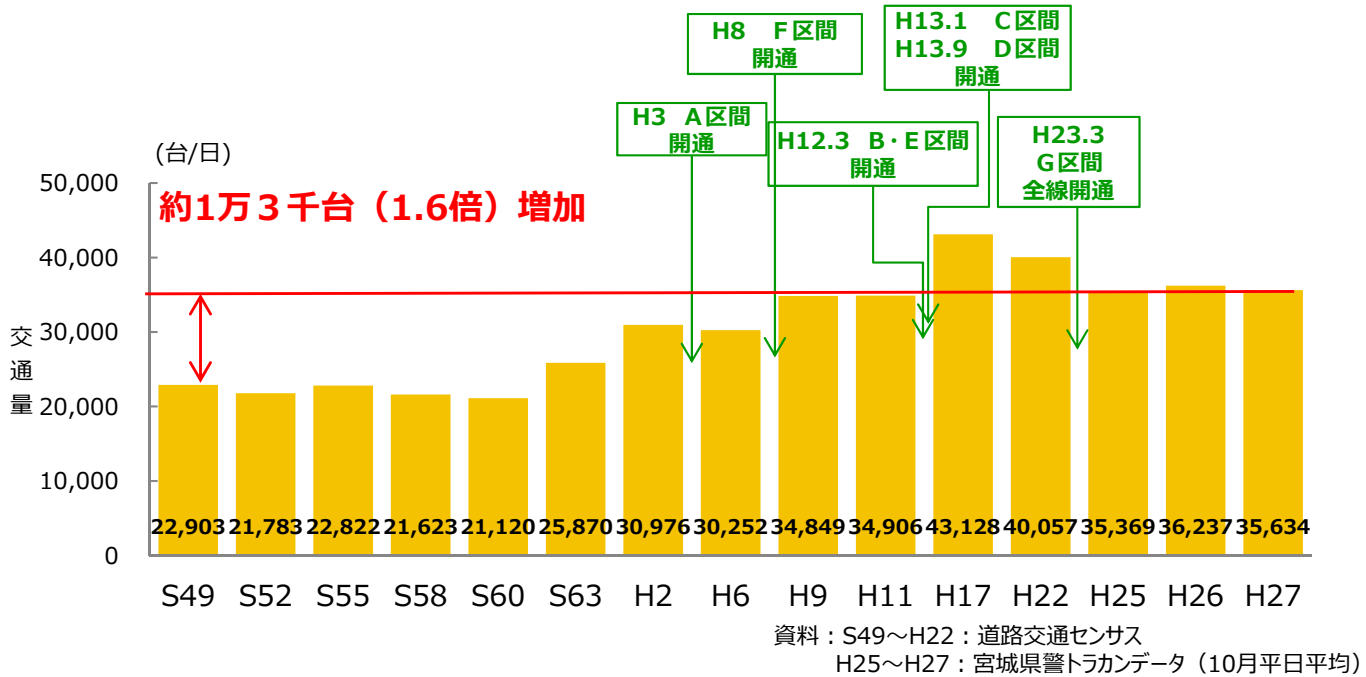




2．事業効果の発現（１）　交通量の状況

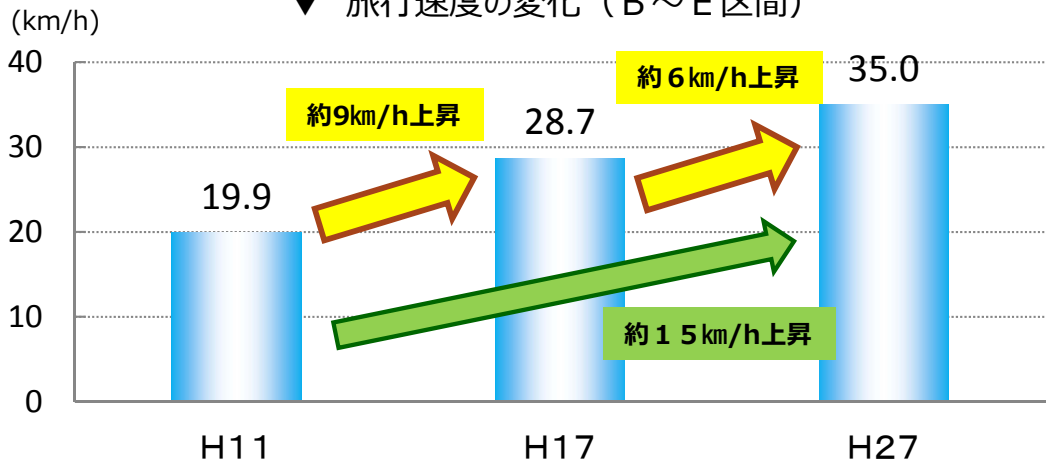
◆国道４号の交通量は約３万６千台／日となり、工事着手時の昭和４９年に比べ約１．６倍に増加
◆開通区間の旅行速度は、B～E区間で見ると開通前と比較して平成２７年は約１５km/h上昇

▼ 評価区間の交通量、平均旅行速度の推移

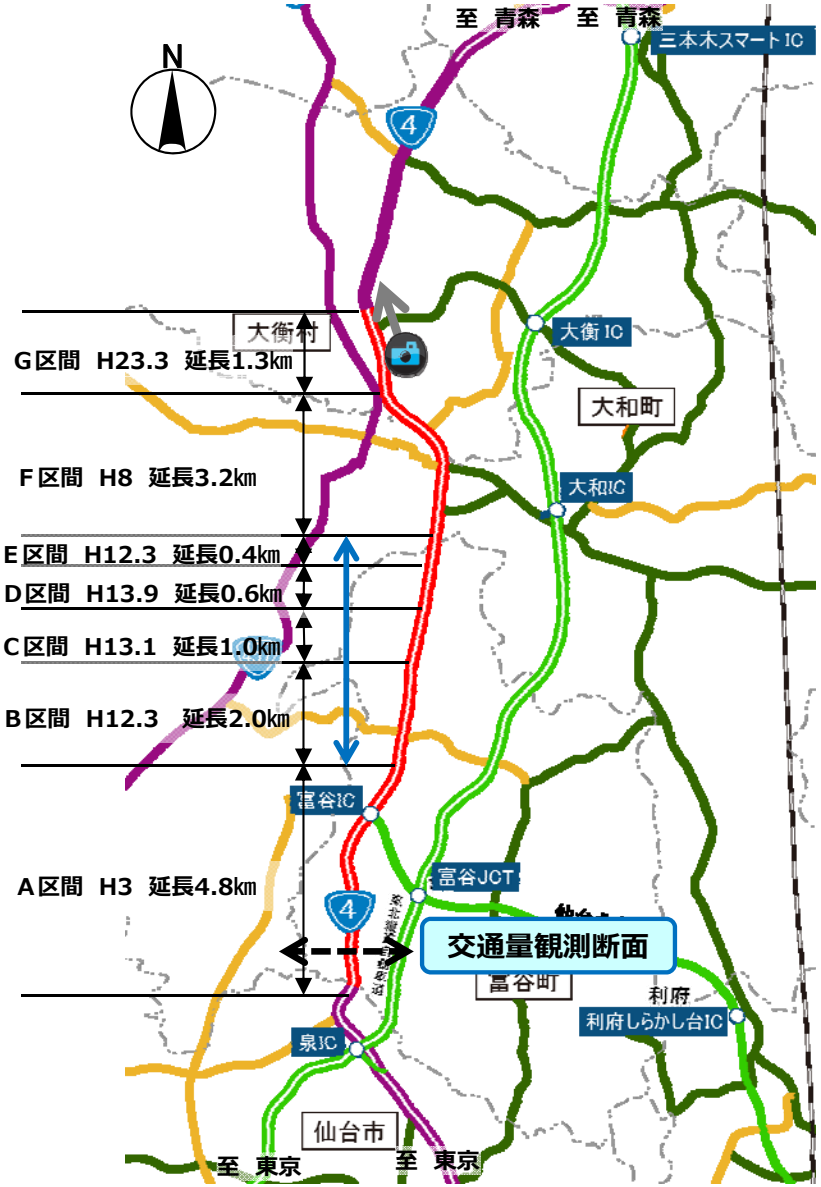


資料：S49～H22：道路交通センサス
H25～H27：宮城県警トラカンデータ（10月平日平均）

▼ 旅行速度の変化（B～E区間）



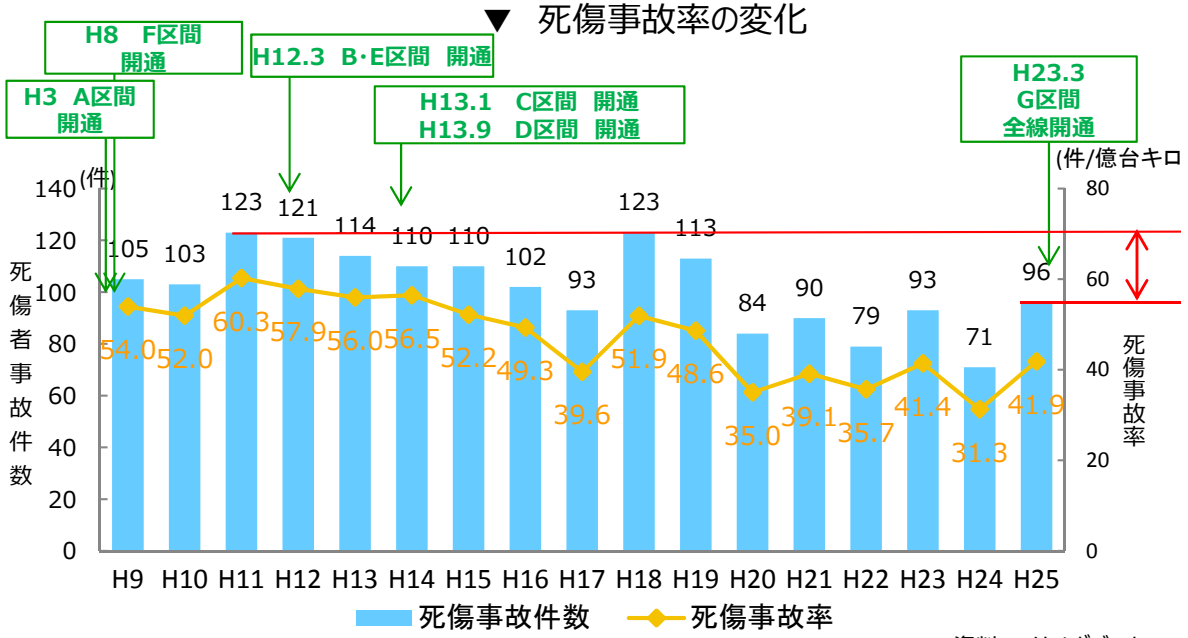
※開通前（H11）は、開通前直近の道路交通センサス、開通後（H17）は、開通後直近の道路交通センサス、現在（H27）は、プローブデータ（H27年10月）より算出



2．事業効果の発現（２）安全性の向上

◆富谷大和拡幅全線開通により、国道４号の死傷事故件数は減少傾向
◆死亡事故件数は全線開通後は発生なし

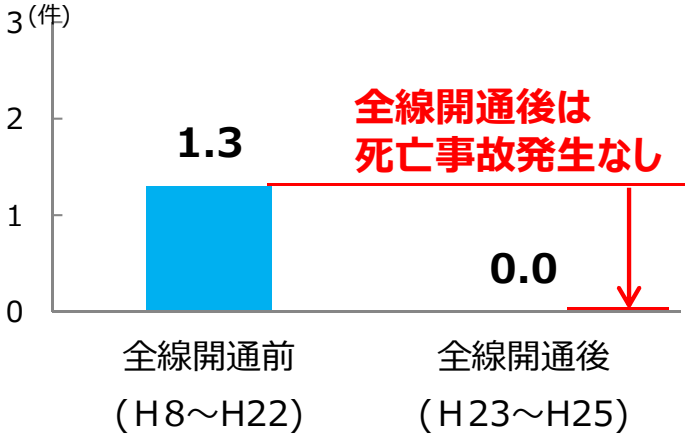
▼ 死傷事故率の変化



27件減少
約20件/億台キロ
低下

資料：イタルダデータ

▼ 全線開通前後の死亡事故件数



資料：イタルダデータ



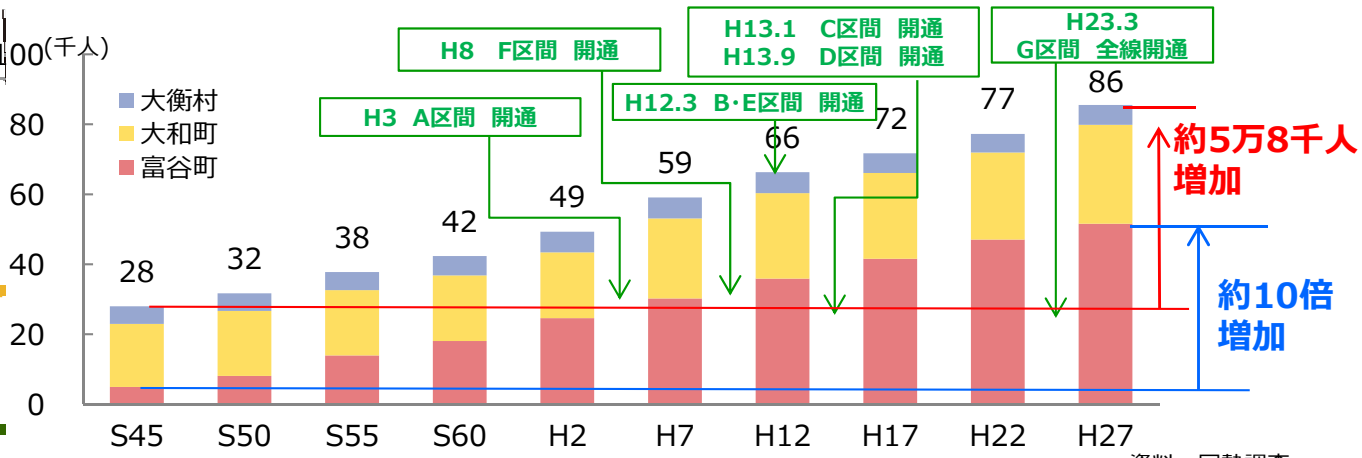
2．事業効果の発現（３）利便性向上により人口が増加

◆4車線化整備に伴う仙台市へのアクセス性向上により、仙台市のベッドタウンとして人口が大幅に増加し、事業化前の昭和４５年と比較して、平成２７年の人口は約5万8千人増加
◆特に、富谷町の人口の増加率は東北第1位であり、将来に渡っても増加が予想される

▼ 大規模住宅団地



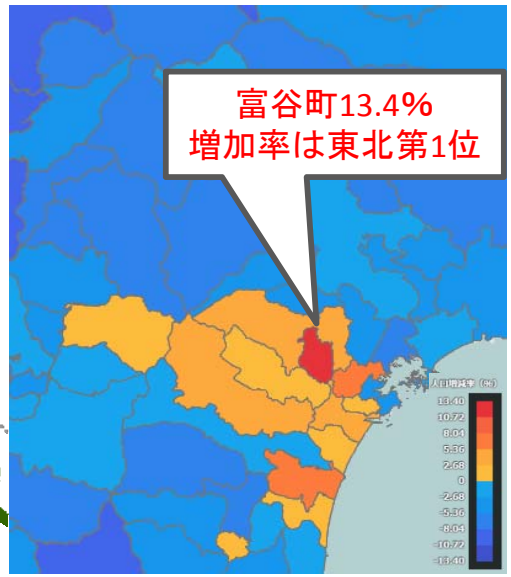
▼人口の推移



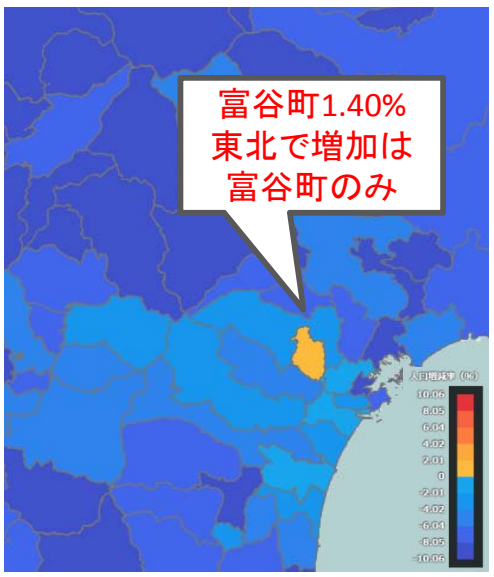
資料：国勢調査
H27は速報値

▼富谷町の人口増加率

【現況（2010年）】

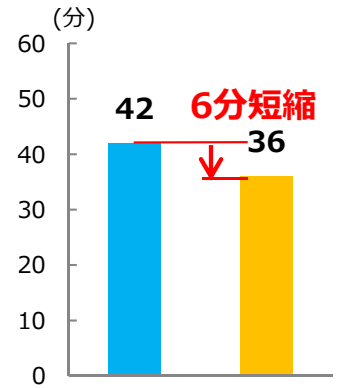


【将来（2040年）】



出典：RESAS人口マップ
資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

▼富谷町から仙台駅までの所要時間



資料：開通前…道路交通センサス
開通後…プローブデータ
（H27.10平日混雑時平均）

※富谷町は国道４号仏所交差点

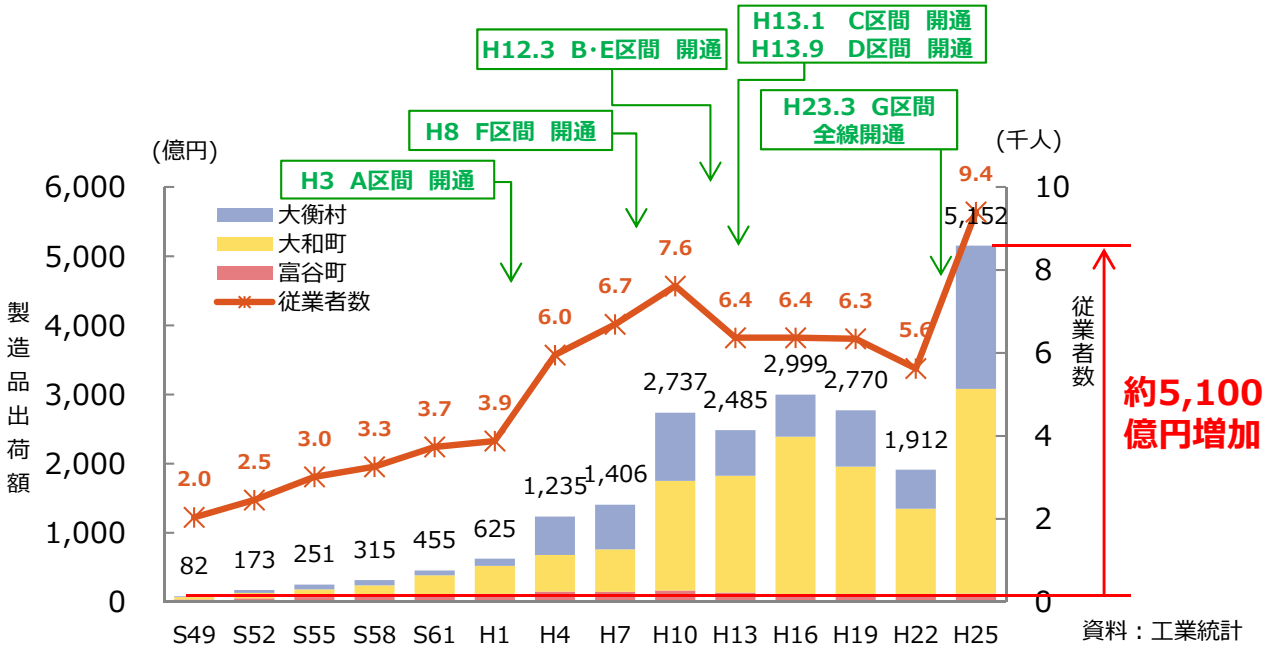
2．事業効果の発現（４）交通の利便性が向上し産業活動が活性化

◆富谷大和拡幅事業化以降、多くの工業団地が造成され、製造業従業者数は事業化時に比べ7千4百人（約5倍）増加
◆平成23年にトヨタ自動車東日本が大衡村に進出したこともあり、製造品出荷額等は5,100億円（600倍以上）に増加

▼ 工業団地



▼製造品出荷額等の推移



資料：工業統計

■富谷町（企画部産業振興課）の声
・富谷町の工業団地は**国道4号の4車線化に合わせて造成される**ようになった。
・富谷町は**アクセス性の良さ**から、物流系の企業の進出が多い。製造業は食品関係の企業が中心である。
・4車線化する前の渋滞はひどかった。4車線化後は富谷町での渋滞がひどいとの声は聞かれない。


宮城・富谷

高屋敷団地に2社目進出

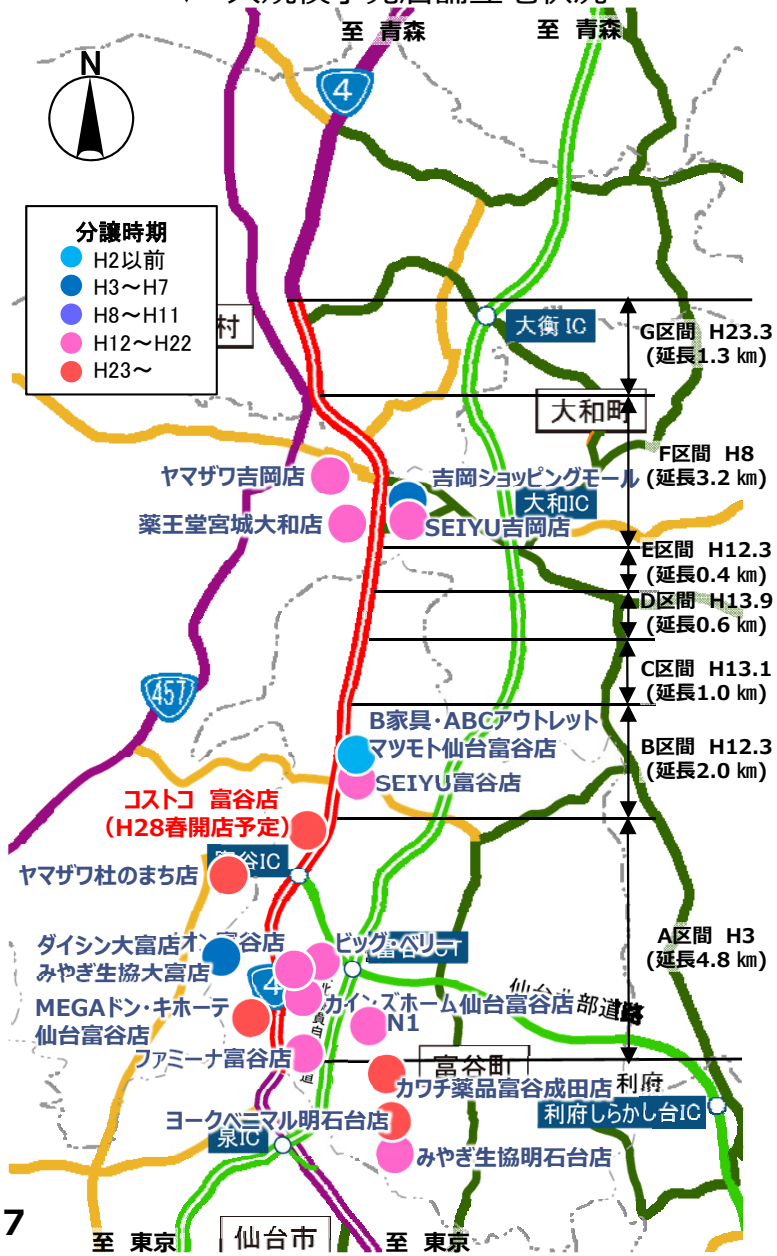
木材、資材 ザイエンス 塩釜から拠点移転

河北新報（平成28年2月4日）

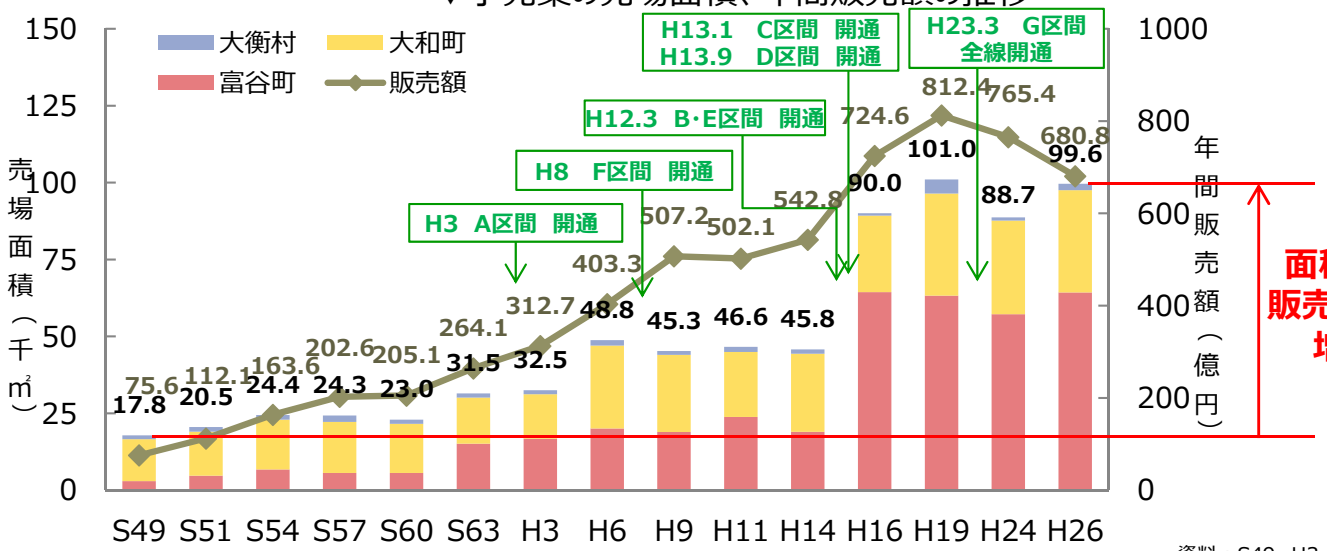
2．事業効果の発現（５）交通の利便性が向上し大型商業施設の進出が急増

◆富谷大和拡幅事業化以降、４車線化による利便性向上により、イオンモール等の大型商業施設が進出し、売場面積は約5倍、年間販売額は約9倍に増加
◆平成２８年春にはコストコが富谷町に出店予定

▼ 大規模小売店舗立地状況



▼小売業の売場面積、年間販売額の推移



資料：S49～H3 宮城県の商業
H6～H26 商業統計



コストコ「市場に魅力」
宮城・富谷出店を正式表明

米国系会員制量販店コストコホールセールジャパン（川崎市）のケン・テリオ社長は16日、宮城県富谷町役場を訪れ、同町高屋敷地区に「富谷倉庫店」を出店すると正式に表明した。約3500種類の商品を扱い、開業に合わせ町と防災協定も結ぶ考えを明らかにした。

テリオ社長は若生英後町長、高屋敷土地区画整理組合理事長の一力敦彦富谷出店を記者会見で正式に表明するテリオ社長（中央）。同席した若生町長（左）と一力理事長

説明によると、店舗は面積約1万3860平方㍍。最大約900台の駐車場を備え、2016年春に開業する。今夏に土地が組合から引き渡され、店舗の建設工事に入る。約300～400人を地元で雇用し、うち半数は正社員という。取扱商品は国産6割、輸入品4割程度で、地場産品も販売する。

新たに開発される高屋敷地区の産業用地は、仙台北部道路富谷インターチェンジに近い国道4号沿いで総面積21・4㌶。造成工事は9月完了予定で総事業費は約25億円。地権者は東北放送、河北ラジオ、内ケ崎酒店など。

コストコは7月、上山市に東北初出店となる「上山倉庫店」をオープンする。

東北放送社長とともに町役場で記者会見。「人口が伸びている富谷は魅力的な市場」と述べた。

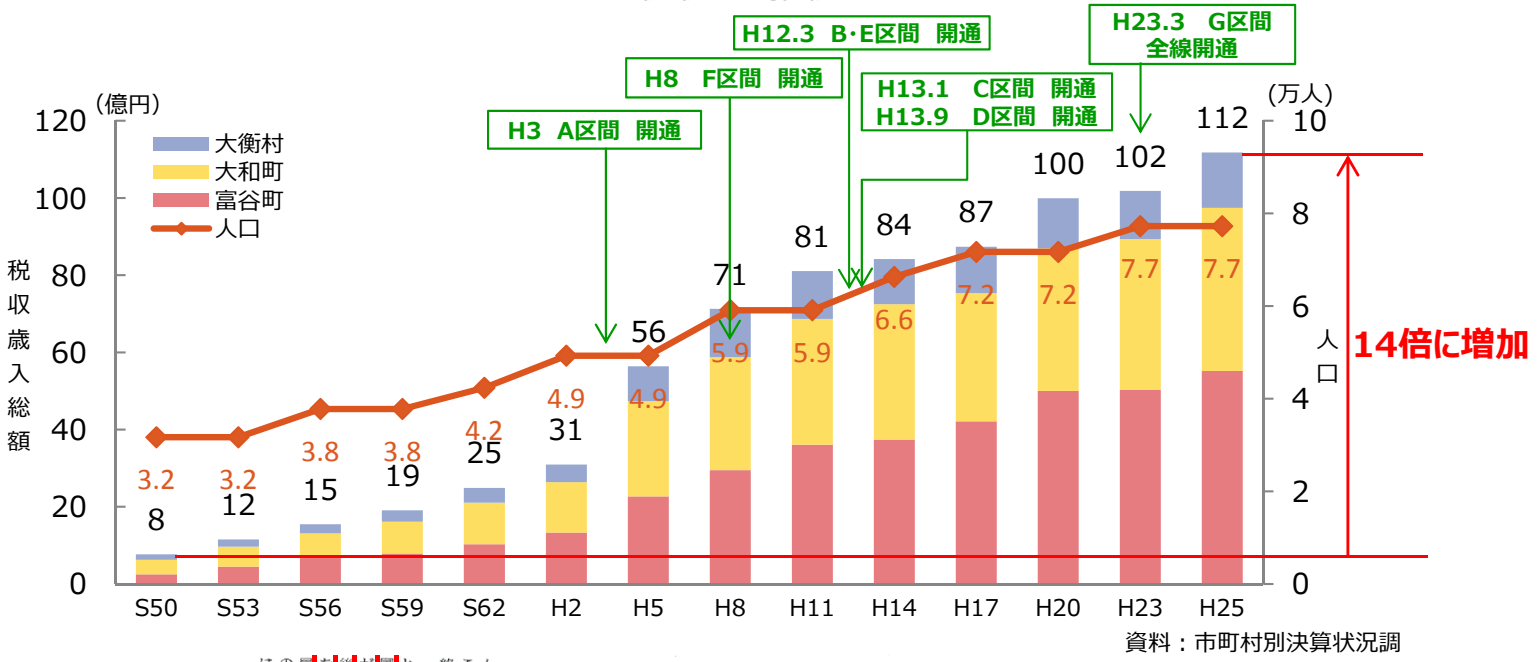
河北新報（平成27年1月17日）

■富谷町（企画部産業振興課）の声
・コストコの出店に関しては、コストコが宮城県内の数か所の候補地から、**「アクセス性の条件が良い」**等の理由で富谷町に決定した。
・開店後は渋滞が懸念されるが、４車線道路であるため、ある程度捌けるのではないかと思われる。

2．事業効果の発現（６）　企業、居住者の増加により税収が増加

◆４車線化整備によりアクセス性が向上した結果、進出企業や人口が増加し、沿線自治体の税収が大幅に増加
◆富谷町は平成28年10月に市政移行予定

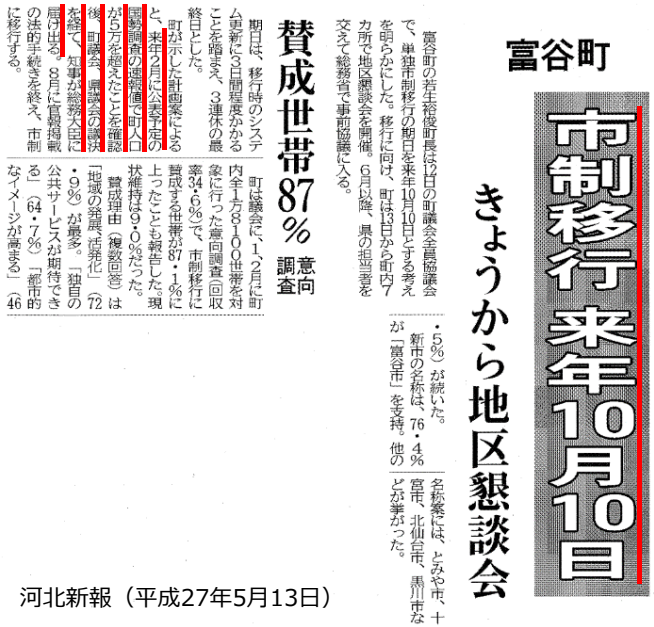
▼地方税収入の推移



資料：市町村別決算状況調

市に移行するための要件（地方自治法）

- 人口が５万人以上であること（国勢調査による全国的な人口調査で集計された人口）
- 中心の市街地を形成している区域内にある戸数が、全戸数の６割以上であること
- 商工業その他の都市的業態に従者およびその者と同一世帯に属する者の数が、全人口の６割以上であること
- 県の条例で定める都市的施設その他の都市としての要件を備えていること


富谷町

市制移行 来年10月10日

きょうから地区懇談会

賛成世帯87％ 意向調査

富谷町の若生裕俊町長は12日の町議会全員協議会で、単独市制移行の期日を来年10月10日とする考えを明らかにした。移行に向け、町は13日から町内7カ所で地区懇談会を開催。6月以降、県の担当者を交えて総務省で事前協議に入る。

期日は、移行時のシステム更新に3日間程度かかることを踏まえ、3連休の最終日とした。

町が示した計画案によると、来年2月に公表予定の国勢調査の速報値で町人口が5万を超えたことを確認後、町議会、県議会の議決を経て、知事が総務大臣に届け出る。8月に官報掲載を経て、市制の法的手続きを終え、市制に移行する。

町は議会に、1、2月に町内全1万8100世帯を対象に行った意向調査（回収率34・6％）で、市制移行に賛成する世帯が87・1％に上ったことも報告した。現状維持は9・0％だった。

賛成理由（複数回答）は「地域の発展、活発化」（72・9％）が最多。「独自の公共サービスが期待できる」（64・7％）「都市的なイメージが高まる」（46・5％）が続いた。

新市の名称は、76・4％が「富谷市」を支持。他の名称案には、とみや市、十宮市、北仙台市、黒川市などが挙がった。

河北新報（平成27年5月13日）

■富谷町（市制移行･地方創生推進室）の声

- 富谷町は、仙台市のベッドタウンとして「職住が近接」、「都市機能と自然環境の調和」、「子育て環境、教育環境が良い」等の理由から、他市町村より住環境のイメージが良いと認識され人口が増加している。
- また、国道4号の４車線化による仙台市へのアクセス性の向上による影響も大きい。
- 国道4号が2車線であれば、渋滞を招いていた。国道4号の4車線化による交通整備を含めた生活環境の良さが人口増加につながっている。

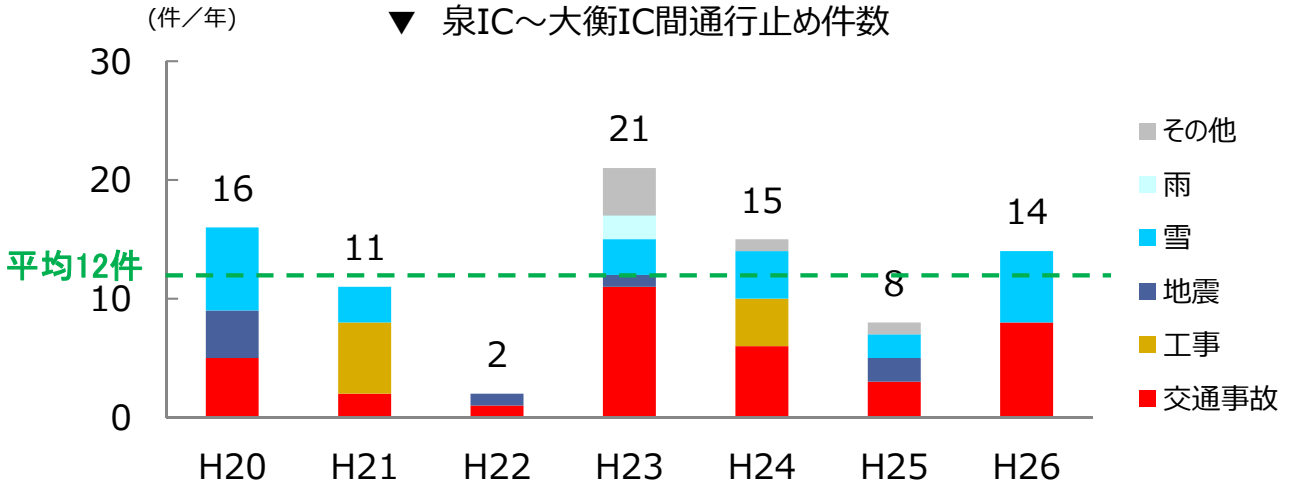
2．事業効果の発現（７）東北道の代替機能を発揮

◆並行する東北縦貫自動車道は年間平均12件の通行止めが発生（泉IC～大衡IC間）
◆４車線化により、高速道路通行止め時でも安定した代替経路として交通処理機能を発揮

▼ 高速道路通行止時の迂回ルート

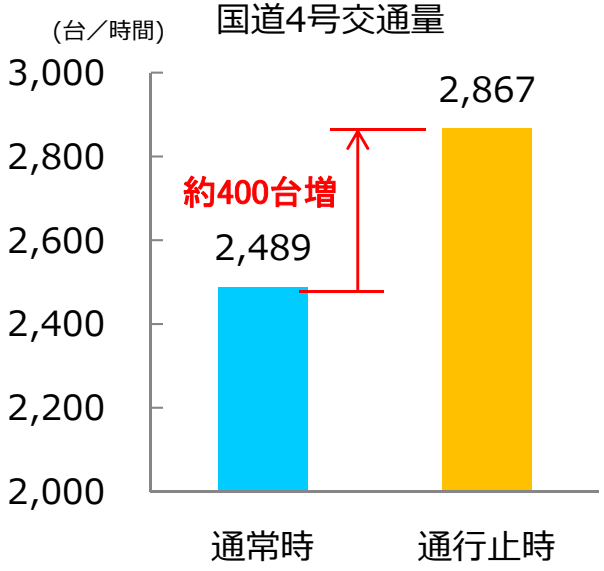


▼ 泉IC～大衡IC間通行止め件数

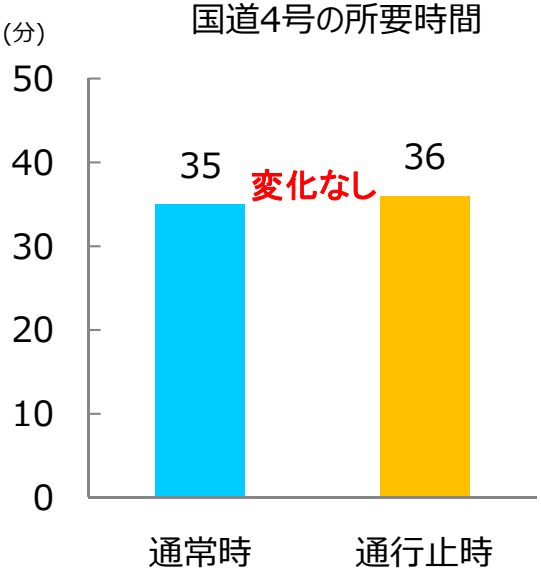


資料：NEXCO東日本

▼ 高速道路通行止時の
国道4号交通量



▼ 高速道路通行止時の
国道4号の所要時間



資料：トラカンデータ（泉）
通常時：平成26年12月17日18時～19時
通行止時：平成26年12月16日18時～19時
※大和IC～仙台宮城IC、交通事故のため通行止め（18時～19時30分）

資料：プローブデータ
※（仮）大和IC入口交差点～泉IC（11.7km）

3．費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

○全体事業費
　前回（Ｈ２０）点検時　：　２６０億円
　事後（Ｈ２７）評価時　：　２６０億円

○計画交通量（Ｈ４２）
　前回（Ｈ２０）点検時　：　３６，９００台／日
　事後（Ｈ２７）評価時　：　３６，２００台／日

○実測（Ｈ２７）交通量　：　３５，６００台／日 ※交通量は、代表断面値　　（参考）費用便益比　：３．７

4．事業実施による環境の変化

評価対象区間については、平成23年度に環境騒音調査を実施。完成後の騒音測定値は改善傾向を示しているが、国道４号（昼間／夜間）は一部環境基準を超過している状況。

5．事業を巡る社会経済情勢等の変化

○高規格幹線道路の整備状況
・仙台北部道路　　平成14年 ５月　利府JCT～利府しらかし台IC　開通
　　平成22年 ３月　利府しらかし台～富谷JCT　開通
　　平成25年12月　富谷JCT～富谷IC開通

○その他の整備状況
・国道4号三本木古川拡幅　　平成25年 3月　全線4車線化完了

6．対応方針（案）

事業当初の目的に対し、富谷町、大和町、大衡村における国道４号の交通混雑緩和や地域産業活性化等の効果を発現しており、今後の事後評価及び改善措置の必要はない。。